

会員の方々と事務局を結ぶ……

# こねっと通信

こども医療ネットワーク

2007. AUTUMN Vol.4



*Save the Children*  
私たちは 離島・へき地の  
難病児を支援します

すべてのこどもに適切な小児医療と  
快適な闘病生活を



特定非営利活動法人(NPO)

こども医療ネットワーク

## こども医療ネットワーク「平成19年上期」の活動

<健康相談会>

- 平成19年3月 4日(日)・・・南大隈町
- 3月17日(土)・・・瀬戸内町(奄美大島)
- 4月 8日(日)・・・西表市(種子島)
- 5月13日(日)・・・大口市

## こども医療ネットワーク「平成19年下期」の活動予定

<健康相談会>

- 平成19年8月11日(土)・・・龍郷町(奄美大島)
- 9月 1日(土)・・・喜界町(喜界島)
- 11月 3日(土)・・・和泊町(沖永良部島)

※与論町(与論島)での相談会は日程調整中



平成19年4月24日(火)、入院中の子どもたちを笑いで元気づけようと、道化師の大棟耕介さん(37/日本ホスピタル・クラウン協会/名古屋市長)が、鹿児島市立病院と鹿児島大学病院の小児科病棟を訪問しました。

病棟ではおどけた様子で血回しや風船芸などを披露し、病棟では子どもたちのにぎやかな笑い声で溢れました。

## 入院中の子どもたちの笑顔と歓声

## ホスピタルクラウン(道化師)の大棟耕介さん(日本ホスピタルクラウン協会) 病院で芸を披露



4月25日

この訪問は、たまたま同協会は、昨年5月にNPO法人として活動を行っており、現在10名のクラウンが名古屋を中心とした病院を回って患者さんたちの心を和ませています。

大棟さんは、「子どもたちには病気を忘れて楽しんでもらえたらうれしい。現在は私たちがクラウンの養成にも力を入れており、いずれこの鹿児島でも養成講座が開けるようにしたい」と話してくれました。

午後には訪問した大学病院では、オレンジ色の服に赤い鼻、金色の靴といった衣装で登場した大棟さんに、待ちかまえた子どもたちの大歓声。保護者の方々も一緒に楽しんでいました。

またテレビでホスピタル・クラウンの存在を知った患者さんと、こども医療ネットワークが連携して協会の依頼し、大棟さんの快いお返事のもとに実現したものです。

## 報告「こども健康相談会」平成19年4月8日(日) 西表市

西之表市では昨年1月にはじめての健康相談会が田上病院で開催されました。日程の都合で西之表市の対応ができなかったためでしたが、今年には市町村の保健師さん方に全面的に協力して頂き開催できました。

春休みにかかったこともあり、広報活動に難渋しましたが、ポスターのほかに無線放送を利用したことが功を奏し、中種子町、南種子町から、保護者のみならず保育士さんの参加もありました。種子島地域で育児を支援する意識が非常に高いことが伺えました。

イラスト、写真、表を多用した視覚に訴える各先生方の講演が大好評で、もう一度聞きたいという声もありました。それ故に講演の間だけでも子どもを預かってくれる託児室の併設をという希望もありました。

小児科医が2名常駐する種子島ではありませんが、反響の良さとの今後の相談会の継続を希望する声に、この相談会の意義は大いにあったと感じました。今後は、健康フェスタや市町村祭りのイベントとして開催すると、さらに多くの参加者が集まると思います。(文責：池田さやか)



こども健康相談会の詳細は、こども医療ネットワークのホームページで紹介中です。

「温かいご支援、本当にありがとうございました」

支援金を受け取った親御さんにお話を伺いました

■急性白血病で闘病中のY.Hさん(〇)のお母さん・Aさん

早速にご支援頂き、ありがとうございます。Uにとってはうれしいことですが、自分たちには縁があったことなのだと思えていくつもりです。苦しんでいるのは自分達だけではないのだと、ここにいます。肌馴染みのように感じます。知ろうとしなかつた世界、これから勉強のつもりで頑張ります。

■好中球減少症で闘病中のH.Kさん(〇)のお母さん・Tさん

多いときは週に三回、私が車を運転して約1時間かけて通院しています。ガソリン代も値上がりし、いろいろお金がかかります。

今回のご支援は、うれしい限りです。大切に使用させていただきます。1歳の誕生日に病名が分かって以来、絶対に治ることを信じて治療しています。同じ境遇の親御さん、一緒に頑張ってくださいませ。

こども医療ネットワークでは今後も、健康相談会、講演会、募金活動などを、さまざまな離島やへき地に拡大していく予定です。

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望など、下記までどしどしお寄せください。

- 郵便等・・・〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内「こねっと通信」係
- メール・・・info@kodomo-iryu.org (事務局)
- 電話&FAX・・・099-251-5930 (尚、電話の場合は録音になります。後日事務局よりご返答いたしますので、連絡先・電話番号等を録音してください)

## こども救急箱

## 発熱と熱さまし(解熱薬)

こども医療ネットワーク  
奥 章三(鹿児島こども病院院長)

..... 2007年5月14日 南日本新聞掲載 .....

赤ちゃんは生後6か月を過ぎるとお母さんからの免疫がほとんど無くなるため、感染症にかかるとよく熱をだすようになります。

こどもさんが熱をだすと、ご家族としてはとても心配されます。病気(感染症)にかかると何故熱が出るのでしょうか? 体は体内に入ったウイルスや細菌を退治しようと体温を上げて對抗して熱をだしているからです。

発熱は体の免疫力(抵抗力)を高め、さらにウイルスや細菌の居心地を悪くして、病気を早く治そうとする生体防御反応のひとつなのです。体温を上げる時は、皮膚が冷たくなり熱が外に逃げないようにします。また、筋肉を震わせて熱を産生します(悪寒戦慄)。こうして感染に対応

した体温まで上昇したら、今度はそれ以上上がらないように筋肉の震えを止め、皮膚を温かくして熱を体外へ出すようにします。

熱さまし(解熱薬)は、この感染症に対する体の防御反応を妨げるもので、出来れば使用しない方がいいと考えられます。せつかく目標体温まで上昇させたのに熱さましで3℃も下げてしまうと、その効果が切れた後にまた体温を目標値まで上昇させなければならず、より強いストレスを体に強い事にもなります。

健康なお子さんでは39℃以下なら熱さましはほとんど不要です。「熱が続くと頭がやられる」と心配される方がいらつしやいます。熱でなければ、41・5℃以上の高熱が続かないかぎり、熱そのもので脳障害がおこることはありません。

体温が上昇する時には本人が寒がりますので、お部屋を暖めたり手足や体が温かくなるよう着衣を増やしたりして体温上昇を助けるようにします。

体温が上がりきつて本人が暑いと感じてからは、適度な水分補給と環境調整(蒸し暑い環境を避ける)で様子を見て、安易に熱さましに頼らないようにしましょう。

※「こども救急箱」の記事は、昨年4月より南日本新聞に隔週で掲載されてきました。バックナンバーは、こども医療ネットワークのホームページに掲載しています。

## ご寄付のお願い

2007年1月1日から6月30日までに、  
下記の皆様よりご寄付をいただきました。  
ありがとうございました。

- 神本三千男様
- ギブ・ツー・アジア様
- 銚之原 昌様
- 若松隆男様
- 岸 恭也様
- キリンビール(株)  
医薬カンパニー開発本部様
- 伊集院鶴見様
- 池田琢哉様
- 鹿児島県熊毛支庁様
- 東 久雄様
- 間宮久子様
- 湊 千聡様
- 佐々木良治様
- 佐々木健一様
- 篠原利和様
- 丸岡英樹様
- 萩原茂昭様
- 大西美衣様
- 佐野芳子様
- 佐々木里果様
- 西條めぐみ様
- 加藤 隆様
- 中野 誠様
- 片山勇治様
- 久米文子様
- 榮村まみ様
- 下原怜子様
- 本田久美子様
- 本田 武様
- 瀬部正昭様
- 瀬部恭大様
- 藺牟田直子様
- 渡辺紀美様
- 稲垣文江様

*Thank you for your donation*



### ■ 一般寄付

本法人の活動意義をご理解いただき、  
ご寄付を賜りますようお願いいたします。  
現金收受の方法は、事務局へお問い合わせください。

■ 個人賛助会員：年会費（一口）……………12,000円

■ 法人賛助会員：年会費（一口）………120,000円

本法人の活動意義にご賛同いただき、活動を支援いただける  
個人または企業の入会をお願いしております。  
入会申込書を事務局へご送付ください。

(順不同)

鹿児島市内の病院で受診するために宿泊が必要な方に…

## 「鹿児島ファミリーハウス」いよいよ始動！

治療に長期間の通院や入院が必要な病気にかかったお子様を持つご家族、特に離島やへき地において闘病生活を続ける親御さん方は、鹿児島市内への交通費や宿泊費など通院のための大きな負担を抱えています。

こども医療ネットワークでは、そうしたご負担を少しでも軽減することを目的として、ご家族が鹿児島市内で宿泊できる施設「ファミリーハウス」をスタートさせました。

施設をご提供いただいた「日本ビル鹿児島支店」様、「がんの子どもを守る会」のボランティアの皆様のご多大なるご協力によって実現しています。



### ＜ファミリーハウスに関するお問い合わせ先＞

- メールアドレス：info@kodomo-iryo.org
  - 電話&ファクス：099-251-5930（担当：上野）
- ※留守番電話の場合はこちらから後ほどご連絡しますので、連絡先電話番号とお名前を録音してください。
- 本部電話：099-275-5354（担当：竹村）



### ●お問い合わせ先●

特定非営利活動法人 こども医療ネットワーク 本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内

電話：099-275-5354

特定非営利活動法人 こども医療ネットワーク 事務局

電話&FAX：099-251-5930

### 特定非営利活動法人（NPO）こども医療ネットワークとは…

特定非営利活動法人（NPO）こども医療ネットワークは、離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域にすんでいるこどもさんが、長期間の入院が必要な治りにくい病気にかかった時に、本人およびご家族が安心して闘病できるように支援することを目的に設立されました。病気に対する不安や疑問を解消し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減するための事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されます。

皆様からお預かりした個人情報、会員のご案内の発送以外の目的で使用することはありません。また、ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

ホームページは随時更新中です。

<http://www.kodomo-iryo.org/>